

## 第58回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会  
世話人 福永 征夫  
TEL & FAX 0774-65-5382  
E-mail [jrfd117@ybb.ne.jp](mailto:jrfd117@ybb.ne.jp)

第58回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 9月8日の前回のアブダクション研究会では、『知の構造化を考える』というテーマで、世話人の福永が、資料に基づいてお話をいたしました。その要点は、次の通りです。

① 百科連環を求めて、『知の構造化』を試み、これに挑戦する偉大な運動は、フランス革命当時のフランス百科全書派のディドロ、ダランベールの活動を嚆矢として、現代でも、何度と無く繰り返されてきている。レヴィ=ストロース、ピアジェ、ブルーナー、遠山 啓などの仕事が記憶に新しいし、現在では、吉川弘之、小宮山宏の注目すべき活動が進行中である。

② 運動の契機として共通なのは、時代における「知識の爆発的増加」に伴う「認識に関する」不安である。そこには、物理学における革命から始まり、哲学によって明確化された、「知ること」の本性についての懐疑が内在しているものと思われる。

③ それぞれの『知の構造化』の活動に見られる特徴の違いの一つは、「知の形式性」という条件と、「知の発展性」という条件、の二つの相補的な条件に振り向けられたウエイトの違いにある。レヴィ=ストロース、ピアジェ、遠山 啓では、「知の形式性」に重きが置かれ、吉川弘之を中間者とし、ブルーナー、小宮山宏では、「知の発展性」に重きが置かれているようだ。

④ 『知の構造化』において、「知の形式性」という条件と、「知の発展性」という条件、の二つの相補的な条件は、互いに凌ぎを削る相克的な関係にある。

サステイナブルな世界を確保するには、人間が、その両立を図り、そのように『構造化された知』によって、多様な部分域と部分域が、に相互作用するとともに、全体域として、渾然一体の自己完結性を示せるようにすることが重要である。

⑤ 以上の要点を中核として、福永は、東京大学の『知の構造化センター』の注目すべき動向を紹介するとともに、『知の構造化』のニーズと、『知の構造化』の類型、さらには、『知の構造化』のアルゴリズムについて、所見を述べました。そして、最後に、『知の広域化と高次化』という『知の構造化』の本質について、試論を提示しました。

(2) 当日は、前武蔵工業大学教授の沼田 潤氏のご来席を得ましたが、先生には、今後とも未永くご指導を頂きますようお願いをいたします。飛び級入学で進学された千葉大学文学部行動科学科の若い学徒の大杉直也さんにも、ご参加頂きました。今後とも、可能な限り積極的に参加され、活躍されることを期待します。

(3) 翌日の9月9日には、伊東義高氏の『知の分科会』第三会合が、東京駅前の江崎事務所で開催され、活発な論議が展開されました。

(4) 9月25日には、大河原敏男委員長の『自然・生態系・人間の営みとアブダクション分科会』が、下北沢のNEC 会館でスタートを切りました。東海大学の古賀邦正教授の有意義なお話を受けて、積極的な発言が続きしました。

既存の領域的な知をベースにして、新たな領域的な知を探索し、それらを広域的な知に組み換えて、よ

り高次の領域的な知を仮説設定的に発見することを目標に、アダクシオン研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。

## 記

◇ 日時 : 2007年11月17日(土) 13:00~17:00(例会)  
17:20~19:20(懇親会)

◇ 場所: 日本電気厚生年金基金会館 『2F・大』会議室 (中山氏のお名前で申し込み)  
東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話:03-3413-0111(代)  
\* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分  
\* 会場地図をご希望の方は、事務局・太田までご連絡下さい。なお、グループメールメニューのブリーフケースを開き、「NEC 厚生年金会館MAP」ファイルからご覧いただけます。

◇ テーマ: 研究発表 『日本人の心の源流とアダクシオン』  
科学技術・生存システム研究所 神出 瑞穂 氏

通常、大和心、大和魂などと称される日本人の心を王朝時代からはるか弥生、縄文時代まで遡ってその源流を探索しました。そこには当時の日本列島人がアダクトした現在のシステム生物学にも通ずるユニークな思想が発見できます。それは漢語や現代科学の「生命」の概念を超えた内容なので、大和言葉で「超いのち主義」と名づけました。同時に、なぜこのような思想が生まれたかをDNA人類学との関連で考察しました。

文献案内:

- #1 「いのちとかたち」 山本健吉, 新潮社 (1981)
- #2 「現代の大和ごころ: 日本教養全集14」梅原猛ほか京都学派, 角川書店 (1974)

◇ プログラム:

- |                                    |             |
|------------------------------------|-------------|
| (1) 諸連絡                            | 13:00~13:10 |
| (2) 研究発表                           |             |
| PART [1]                           | 13:10~14:25 |
| — 休憩 (5分) —                        |             |
| PART [2]                           | 14:30~15:45 |
| — 休憩 (5分) —                        |             |
| (3) 総合的な意見交換                       | 15:50~16:50 |
| (4) その他の連絡事項                       | 16:50~17:00 |
| (5) 懇親会 (楽しく勉強になります。是非積極的にご参加ください) | 17:20~19:30 |

